

セッション1 透析室管理

01. 当センターにおける手指消毒実施率の調査と今後の課題

○廣瀬沙優里 (ヒロセマリ)¹⁾、芝田 正道¹⁾、小川 哲也²⁾、樋口千恵子²⁾、中野 清治¹⁾³⁾
東京女子医科大学東医療センター 臨床工学部¹⁾、同腎臓内科²⁾、同心臓血管外科³⁾

【背景・目的】血液浄化室は複数の患者が同フロアで同時に体外循環を行うため感染対策が重要である。当浄化室では各ベッドに消毒液を配置し、携帯用消毒薬を推奨している。今回手指消毒実施の現状把握と感染対策意識向上を目的とした調査を行った。

【方法】臨床工学技士8名に対し穿刺、介助、各処置の前後での手指消毒実施を直接観察法にて調査した。手指消毒実施機会の目標を30回、事前告知なし、実施率告知後の2回で調査を行い各調査後に聞き取り調査を行った。また、直接観察法の精度を確認するため2名の観察結果の相関を比較した。

【結果】事前告知なしでは平均 $44.2 \pm 23.8\%$ 、告知後は平均 $77.0 \pm 28.1\%$ と実施率が上昇した。2名の観察結果は $R^2=0.1361$ で相関はなく観察者による結果への影響が懸念された。

【まとめ】手指消毒の実施状況が把握でき実施率も向上した。ホーソン効果の可能性もあるがスタッフの意識も向上していると思われた。しかし通常業務を行いながらの直接観察法では実施率を正しく評価できない可能性があった。今後は製剤使用量による調査の検討、皮膚に問題のあるスタッフへの考慮などを課題とし、更なる感染対策への取り組みを継続していきたい。